

僕は19歳のときに
求人情報誌「ガテン」を見て
富士産業に入社しました

後継者募集

株式会社
富士産業

おおっ

杉本秀樹です
よろしく
お願いします！

それから25年…
社長をするまでには
本当にいろいろなことが
ありました

わが兄弟、 富士産業

卸 真鍮 アルミ ステンレス
(株) 富士産業 TEL 03592 0411

僕は幼いころから
ものづくりが好きで、
「将来自分で
何かつくってみたい」という
気持ちがありました。

ところが、僕が入社したころの
富士産業は
いわゆる材料屋さんで、
ものづくりのノウハウが
なかったのです

シャーリングマシンを
使って金属の板を切断し
お客様に納めることが
主な仕事でした

僕も入社して2年間は
一生懸命シャーリングを
していました

もっと外の世界を
知りたいなあ…



おはようございます!

トラックでお客様先をめぐる営業に配置転換



望月麗子社長
(当時、現・会長)



そんな気持ちが強くなった僕は社長に相談し



たまにヘラ絞りや溶接の機械を触らせてもらったりして金属加工の技術を蓄積していきました



当時のお客様は溶接や塗装、ヘラ絞り建築板金など多種多様な金属の加工屋さんです

材料を納めに行くたびに工場にある機械や道具を「これはどういうものですか」と聞いて知識を増やしていきました



おう、すぎもっちゃんおはよう!



秀樹ちゃんはスジがいいねえ

当時20代前半だったのでお客様からは可愛がっていただいた覚えがあります



外に出ればいろいろな人たちとの交流があり、出会いには自分を成長させるなと感じました

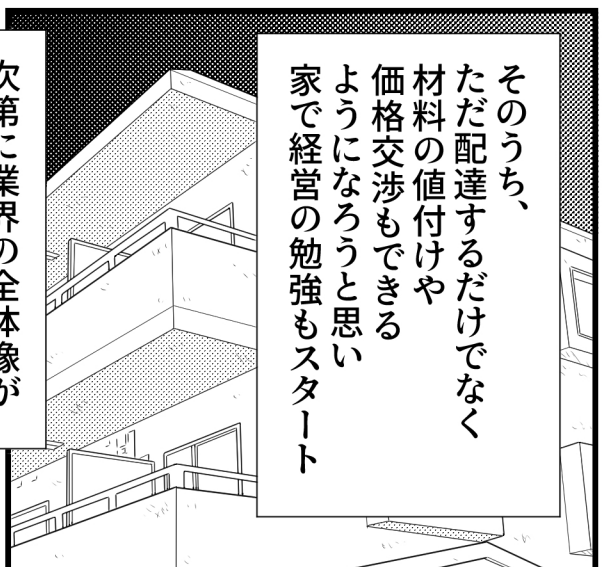


「このままでは先行きが危ない」という危機感を抱くようになりました



うーむ...

次第に業界の全体像が見えるようになると



そのうち、ただ配達するだけでなく材料の値付けや価格交渉もできるようになろうと思いい家で経営の勉強もスタート



お客様に恵まれ、
大量の受注をこなしたことで
僕たちの腕はどんどん
磨かれていきました

一通りの金属加工の技を
身につけると、お客様に
「こういうものを
作りませんか？」と
提案できるようにな
っていました

いわゆるOEMの
開発です

製品開発の段階で
デザイナーと
デイスカッションする
機会も増えました

最初は
デザイナーが話す
「カーブの美しさ」や
「バランスの良さ」が
全然理解できず、
悔しい思いしたものです

僕は今でこそ
「センスがあるね」と
言われますが、
最初からそうだった
わけではありません

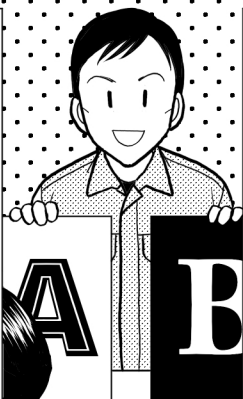
センスというものは
たくさんの良いものを
見るうちに
磨かれていくものです

僕はデザイナーの手がけた
バッグの金具や建具、
テーブルなどの
「デザイン」に積極的に
触れることをしました

それを繰り返すと、
自分の中で「良いデザイン」
についての統計が
出てきます

それが本当に合っているかを
確かめるため、
デイスカッションの時に
複数案を用意して
「どちらがいいと思いますか？」
と意見を聞き続けました

次第に彼らの喜ぶツボが
わかるようになり、
デザイナーの想いを
形にすることが
得意になったのです



その頃、インスタグラムを見た若いクリエイターから「私もこういうものをつくりたい」という相談が寄せられるようになりました

僕らのような技術屋は言われたことを形にするのは得意ですが0から1を企画するのは苦手です

新しいプロダクトを作るには、「設計」も重要です

僕は真鍮製のインテリア什器を作るようになったことがきっかけで建築設計士とも繋がりがありました

クリエイターを工場に招き、モノづくりを支援するうち彼らの柔軟な発想力、企画力に刺激を受けるようになりました

製品を安全に使っていただくための強度や、空間のバランスについては彼らに教えていただいたのです

入社以来金属加工屋としての技術を土台にクリエイターの発想力やデザイナーのセンス、設計士の機能美を積み上げていきました

二〇一八年には真鍮の溶接とエイジングの技術で高飾ブランドを取得

二〇二〇年にはファクトリーブランドを立ち上げました

企画、デザイン、設計、製造というプロセスを自社で一貫してできる総合力が強みです



今までの人生を
振り返ると、
本当にツイてるなあ
と思います

これまで出会った
人たちに
成長させてもらって
いるからです

でも、これでゴールでは
ありません

会長もよく
「稽古とは
一より習い十を知り
十よりかえる
元のその一」
と言っています

茶道の
言葉なのですが

その道の達人と
言われる人たちは
高度な技術を
身につけたあとも
何度も
基本に戻ることを
繰り返して
いたそうです

初心を忘れず、
謙虚な姿勢で
新しい技術や知識を学びながら
終わりのなき旅を続けていきます

25年間、
僕と一緒に成長してきた
富士産業とともに。

銅 真鍮 アルミ ステンレス
(株) 富士産業 TEL 3692 9411